

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価 (3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒自ら課題を設定し、課題解決に向けて主体的に探究することができる生徒の育成を図る。</p> <p>②グローバル化が進む社会で活躍できる生徒の資質・能力の育成を図る。</p>	<p>①新学習指導要領に対応した教育課程を本校の実情と生徒のニーズを踏まえて編成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信技術を活用できる授業環境を整備するとともに、教員の利用を推進する。</li> </ul> <p>②多くの生徒がグローバル教育を受けられることのできる場面の充実を図る。</p>	<p>①本校の教育の骨太方針に基づき、カリキュラムWGを中心に今年度内に新教育課程を編成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が情報機器を活用した授業を導入できるように教員対象の校内ICT研修を実施する。</li> </ul> <p>②身近な事柄を題材とした講演会を実施するとともに日々の授業内でも国際理解を意識した授業を実施する。</p>	<p>①新学習指導要領に対応した教育課程を本校の実情と生徒のニーズを踏まえて編成できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員対象の校内ICT研修を実施し、授業への活用を増やすことができたか。</li> </ul> <p>②身近な事柄を題材とした講演会を実施することができたか。また、日々の授業内で国際理解を意識した授業を実施することができたか。</p>	<p>①骨太方針に沿った新教育課程の骨子案を作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員対象の校内ICT研修を実施し、オンライン授業等に活用することができた。</li> </ul> <p>②2年生はグローバルな視野を広げる内容の講演会を実施した。1年生は複数の講演から生徒自身が興味のある講演を聞く形式に変更して実施した。</p>	<p>①新教育課程を編成することができた。今後は3年次の選択科目の履修方法など細部について検討し、令和3年6月までに確定させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT研修の機会を増やし、オンライン授業の構築を目指す。</li> </ul> <p>②国際理解を意識した授業については、今後アンケートを行って実施状況やその成果等を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面式の講演の他に、インターネットを利用して外国の高校生との対話の機会が設定できるとよい。</li> <li>・「生徒による授業評価」は、第1回と第2回の比較や経年比較を行い、特徴的な変化の分析により授業改善に活用するとよい。</li> </ul>	<p>①令和4年度から始まる新学習指導要領に対応した教育課程を編成するとともに、ICT機器を活用できる授業環境を整備することができた。</p> <p>②コロナ禍でも可能なグローバル教育の充実が今後の課題である。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、今年度実施した組織的な授業改善を継続するとともに、ICT機器を積極的に活用した授業に取り組む。</p> <p>②オンラインでの交流会を新たに実施し、グローバル教育の充実を図る。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①豊かな人間性やコミュニケーション能力、主体的に行動できる人格の育成を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの適切な理解に基づく生徒支援体制と教育・健康相談の充実を図る。</p>	<p>①生徒が主体的に活動する場面や仕組みを整えるとともに支援する。</p> <p>②生徒一人ひとりに目を向け、生徒理解に努める。また、感染症予防の知識を発信するなど健康で健全な学校生活を送れるようにサポートする。</p>	<p>①学校行事で生徒が主体的に活動する場面を増やしていく。</p> <p>②生徒理解のための教育相談担当職員での定例会議などで情報を適切に共有する。また、健康に関する情報を定期的に発信するとともに、健康観察から不安のある生徒に声かけなどのサポートを行う。</p>	<p>①生徒会行事だけでなく、学校説明会などの場面で生徒が主体的に活動する場面を昨年度よりも増やすことができたか。</p> <p>②教育相談担当職員が担任や必要機関と連携し、生徒支援の一助となることができたか。また、健康観察等を通じて実態を把握し、学級通信や「ほけんだより」などで、健康的な生活のサポートができたか。</p>	<p>①生徒会行事や学校説明会において、委員会や生徒会執行部を中心に主体的に活動できた。</p> <p>②健康観察フォームや思春期講座のアンケートを工夫して、生徒の声を把握しやすくした。「ほけんだより」を発行し、生徒の健康面の啓発等のサポートを行った。</p>	<p>①実施できた行事の数が昨年度よりも少なかったため、各行事において生徒が主体的に活動する場面を増やすように工夫していく。</p> <p>②学年で共有した課題を抱えた生徒と適切な機関との連携をどのように進めていけばよいか、ケース毎に事例をまとめ運用しやすくする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長引くコロナ禍にあって、感染防止対策で工夫を凝らし、細心の注意を払って教育活動に取り組んだことは評価できる。</li> <li>・生徒、先生、保護者の距離が近く、生徒理解や支援をしていることは評価できる。</li> </ul>	<p>①緊急事態宣言等の影響で実施できなかった行事は少なかったが、実施準備等で委員会を中心に主体的な活動が行えた。</p> <p>②短い登校時間の間でも生徒の声を把握するため、日々の健康観察を細かくチェックした。また、ポスターや「ほけんだより」等で生徒の健康面の啓発を行った。</p>	<p>①新型コロナウイルスの影響を考慮した上で実施できるように行事の形を、委員会を中心に生徒が主体となって企画する。</p> <p>②事例毎の連携機関や方法を具体例として示し、課題を抱えた生徒のフォローを素早くできるように改善する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月23日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒自らが進路を開拓・選択する力を培うとともに、第一希望の実現をサポートする。	探究活動等を通して、自らの進路を考え、選択できるようサポートする。 ・スタディショップやHi-ゼミなどの講習を通して、基礎力の定着のみならず、応用力の育成を目指す。	進路学習のワークシートによる調べ学習を通して、自らの進路を開拓・選択できるようになることを目指す。 ・夏のスタディショップの1・2年生は英数国、3年生は5教科の応用講座を開講する。 ・Hi-ゼミでは、3年間を見通した応用力育成の講座を開講する。	学年が終わるごとに、生徒それぞれが具体的な進路設定ができたか。3年生は、自分の決めた進路に向けて受験準備が行えたか。 ・スタディショップでは、応用講座が一定数(昨年並)以上、確保できたか。 ・Hi-ゼミでは、各学年、一定数の講座を確保できたか。	探究活動等を通して、3年間の計画を見据え、各学年に相応しい取り組みを行った。 ・スタディショップは夏季休業期間が16日と短くなったため、講座を実施することができなかった(昨年53講座・881名参加)。 ・Hi-ゼミは、10月からスタートし、19講座・延べ983名の生徒が受講した。	各学年間の連絡調整の機会が更に必要である。 ・3年1月のスタディショップは18講座・延べ141名(昨年23講座・延べ146名)が参加した。今後も生徒のニーズを把握し継続していく。 ・Hi-ゼミでは、3学年の講座を進路希望の実現につなげていく。	「魅力特色アンケート」結果では、新企画Hi-ゼミなどの効果もあつてか、進路実現に向けた指導を十分に受けることができたと思われている生徒が8割近くいることは評価できる。	探究活動を通して、自らの進路を考える機会を多く提供できた。 ・Hi-ゼミでは応用講座が多数開講され、応用力育成に努めることができた。 ・スタディショップは、コロナの影響で、冬の3年生向けの講座しか実施できなかった。	学年間の連携を密にして、3年間の進路指導計画を生徒のニーズに沿ったより充実したものにしてしながら取り組む。 ・Hi-ゼミは、模試結果をフィードバックしながら講座の内容を修正する。 ・夏のスタディショップは、今年できなかった分、基礎・応用講座それぞれの更なる充実を目指す。
4	地域等との協働	P T Aや地域との連携事業を推進し、地域とともにある学校づくりを推進する。	P T Aや地域の小中学校との交流・連携事業を推進し、地域の教育力を活用するなど地域とともにある学校づくりを推進する。 ・地域貢献活動や地域の他の学校等との交流を推進する。	P T A活動が円滑に行われるよう連携を密にし、サポートする。 ・西口エリアマネジメントと連携し、地域での多様な活動の活性化を図る。 ・高齢者・障害者施設の訪問や募金活動等の地域貢献活動を行う。 ・保土ヶ谷養護学校分教室と学校行事等を通して生徒同士の交流を推進する。	P T A活動との連携を密にし、地域とともにある学校づくりを推進することができたか。 ・地域での多様な活動の活性化を図ることができたか。 ・地域貢献活動の活性化を図ることができたか。 ・保土ヶ谷養護学校分教室の生徒との交流は推進できたか。	オンライン会議等によりP T Aとの連携を維持しながら、実施可能な活動を行った。 ・新型コロナウイルスのため施設訪問等の計画を変更し、西区と連携して清掃活動や放置バイク警告等の地域貢献活動を行った。 ・保土ヶ谷養護学校との生徒同士の交流は実施できなかった。	今後の感染状況を踏まえ、実施可能な活動を検討する。 ・今後も西口エリアマネジメントと連携しながら地域活動の活性化を図る。 ・今後の感染状況を踏まえ、保土ヶ谷養護学校と実施可能な交流を模索する。	今年度実施できなかった行事(防災訓練、西区第5地区健民祭など)について、地域と連携・協力し来年度の実施を検討することは、地域活性化の観点から重要である。	オンライン会議等によりP T Aとの連携を維持しながら、実施可能な活動を行った。 ・西区と連携して清掃活動等の地域貢献活動を行った。	感染拡大防止に取り組むながら、P T A活動を円滑に実施するための整備づくりに取り組む。 ・西口エリアマネジメントや西区社会福祉協議会等と連携し、感染状況を踏まえた上で実施できる地域貢献活動を行う。 ・保土ヶ谷養護学校と実施可能な交流を、継続して検討する。
5	学校管理 学校運営	①大規模災害に備え、職員・生徒が協力して行動できる体制を整える。 ②生徒と向き合う時間を確保するため、教員の働き方改革を推進する。	①大規模災害に備え、防災マニュアル等に基づき、職員・生徒が協力して行動できる体制を整備する。 ②教員の勤務時間を把握し、長時間勤務の是正を図る。	①津波及び南海トラフ地震を想定した具体的な実践的な防災訓練の計画を行う。 ・横浜市との協定細則に基づく避難所運営について職員の理解を深める。 ②勤務時間内の会議の徹底を図る。	①津波や南海トラフ地震を想定した実践的な防災訓練ができたか。 ・補助的避難所の避難所運営について職員に周知できたか。 ②勤務時間内に会議が終了したか。	①南海トラフ地震を想定した防災訓練を行った。また、DIGを行い、学校周辺の危険箇所について周知できた。 ②勤務時間内に会議が終了するよう工夫を凝らしたが、時間外のものもあった。	①補助的避難所運営について、運営マニュアル等の整備をする必要がある。防災備品の整備が進んだ。 ②今後も継続して時間内に会議が終了するよう取り組む。	・横浜平沼の補助的避難所の役割は大きく、地元住民は大いに期待している。 ・多様化する災害に備えるための運営マニュアル整備も重要である。	①南海トラフ地震を想定した防災訓練を行った。また、DIGを行い、学校周辺の危険箇所について周知できた。 ②勤務時間内に会議が終了するよう工夫を凝らした。	①西区防災課と連携し、補助的避難所運営マニュアルを整備し、教職員に周知する。 ②運用が始まった勤務時間管理システムも活用しながら、長時間勤務の是正を図る。